

Forest 通信 H31 2

林野庁 関東森林管理局 高尾森林ふれあい推進センター NO.360



高尾山の生きものたち

テン (イタチ科)



金色のように輝くきれいな毛並み。初めてテンを山奥の溪流で見たとき、この毛色にハッとした。黄色がかった褐色の毛は美しく、「森の妖精」と言われるくらいだ。細長い体つきをし、大きさは尻尾を除き45cm前後で脚が黒い。夏の顔は黒いが、冬は白く変わる。黒は暗夜で、白は雪で目立たないからだろう。

山地の主に広葉樹林に棲み、ほぼ夜行性で姿はあまり見られないが、細長い糞は目立つ石や杭の上などにあり、時々目にする。高尾山の山道でも見られる。食べ物は、小型哺乳動物や鳥類、昆虫類などで、果実類も好きだ。木登りも上手で、樹の上の動物や果実も食べる。テンは、このような森の生き物の恵みで生きている。

(写真・文 森林インストラクター 藤原 裕二)



NO.40

サルトリイバラとヤマガシユウ

サルトリイバラとヤマガシユウは、同じシオデ属の植物であり葉の形もそっくりであるが、実の色が違う。サルトリイバラは赤いのにに対してヤマガシユウは黒色である。

ところが、外果皮を剥くと中の種子は共に赤いのである。なぜ、外果皮の色が違うのか。

鳥に食べてもらうための戦略であるのだろうか。

自然界の中で種子の色が赤系統は41%、黒紫系統は29%、オレンジ系統は22%で、これらが92%を占めている。黒い色は人間には目立たないが紫外線を識別できる鳥には目立つ色になっている。

そうすると被捕食者に対して外果皮を赤色と黒色にする差はないようだ。ただ、鳥に食べてもらうように植物の果皮を赤や黒に進化させてきたのも

事実のようだ。

この2つの植物の比較については、同じ属でもあるのだが、真意のほどは謎のままだ。

ちなみに、シオデの場合は、外果皮が黒色で中の種は赤い。(富)



サルトリイバラ



ヤマガシユウ



実と種子
左 サルトリイバラ
右 ヤマガシユウ

森林教室

八王子市立 上柚木小学校

1月18日（金）に八王子市立上柚木小学校の5年生49名の児童達が森林散策にやってきました。大型バスで到着したのは丁度お昼時、お腹もペコペコの様子。ペレットストーブの炎で暖まった森林ふれあい館で開校式のあと、待ちかねたお弁当を頬張りながらワイワイガヤガヤと楽しそう。

昼食を済ませると早速、職員が先生役となり4グループに分かれて森林散策スタート。冬の森林でも見所は、沢山。

レモンエゴマの葉を揉んで鼻に近づけると「まるでレモンだ。」と大騒ぎ。モミ林では、モミの木の赤ちゃん探し。5センチ足らずの赤ちゃんモミを見つけて、「この赤ちゃんモミが大きくなってクリスマスツリーになるんだね。」と一言。テイカズラの白い毛状の種を見ては、「これがフワフワと飛んで行って子孫を残すんだね。」と植物の知恵に驚き、スズメバチ誘因捕殺器を見ては、「これは何ですか。」と質問攻め。スズメバチの標本を見せるとその大きさにビックリし、アナグマの巣穴跡や「熊に注意！」の看板を見ては

おっかなビックリした様子。

手入れ遅れのスギ人工林箇所では、人間が手入れをしなければ健康な森林は造れないことなど林業の大切さをアピール。

底冷えのする寒い日でしたが、児童達は何のその。2時間足らずの散策を楽しんでくれたようでした。

閉校式では、児童代表が「森林には、いろんな植物や動物が住んでいることや、人工林を造るには人の手入れが必要なことを学べて、大変勉強になりました。」とお礼の言葉を頂きました。（草）



「あの植物見えるかな？」

「森林教室」へのご参加 お待ちしております

平成30年度もたくさんの小学校から森林教室の依頼がありました。参加頂いた小学校からは、『来年もぜひ』と高い評価を頂いているところです。

森林教室のご希望がございましたら、当センターまで早めのご連絡をお願いいたします。

なお、希望日については、先着順となります。プログラムについても、ご要望に応えられるよう取り組んでまいります。



森林散策しながら学習



森林ふれあい館内で森林・林業の学習



人気の丸太切り体験

公募イベント 森林カレッジⅣ

森林の恵みと共に
～炭焼き、そして森林の香り～

当センターでは、専門家の講義や森林作業などを通じて、一般市民の皆様の人々の生活や環境と森林との関係について学ぶ森林環境教育講座「森林カレッジ」を毎年開校しています。

平成31年1月19日（土）に、今年度最後となる「森林カレッジⅣ」を、日影沢第二園地の炭焼小屋において開催し、午前中に炭焼体験、午後は東京大学名誉教授の谷田貝光克先生による「森林の恵みと共に～炭焼き、そして森林の香り～」と題した講義を実施しました。

午前中の炭焼体験は、地面を掘って作った「伏せ焼き窯」1箇所とドラム缶を利用して作った「ドラム缶窯」2箇所を使い3班に分けて実施しました。各班ともなかなか窯の温度が上がらず何度も交替しながら団扇で扇ぎ、やっと勢いよく出だした煙に手をかざし温度の変化を感じたりしながら、今では滅多に目にすることのない煙に包まれた光景を楽しんでいました。

午後の講義では、現在、炭焼きの会会長、香りの図書館館長等数多くの要職に就かれている谷田貝先生の講義に、メモをとりながら興味深く耳を傾けていました。

閉会式では、「なかなか聞くことのできない話を聞くことができ大変勉強になった」「窯に送る空気量のわずかな変化で煙の温度があっという間に上昇したり下降することに驚いた」等の感想がありました。

昨年5月から始まった森林カレッジが最終回となった今回は、閉会式に続き、森林カレッジ閉校式において修了証書の授与も行いました。修了証書を手にした受講生からは、講義して下さった講師の先生やボランティアで協力いただいたフォレストサポートスタッフ、職員に対する感謝の言葉や「林業はすごく大変な仕事だと感じたが、カレッジでの体験を通じ、今後もっと森林にふれ合っていきたいと思った」「山が好きで新聞広告を見て応募し、回を重ねる毎にますます山が好きになった。林業には興味はなかったが興味が湧いてきた」等、主催者として達成感を感じるような感想をいただき和やかな雰囲気の中1日の日程を終えました。（谷）



受講生の皆さん



谷田貝先生の丁寧な講義



伏せ焼き窯への火入れ



窯の温度について説明



受講生一人一人に修了証を授与

高尾陣馬特別警戒

年末年始の高尾山パトロールを実施

警察や消防等の関係機関・団体で組織する「高尾陣馬特別警戒連絡協議会」では、大晦日から元旦にかけて高尾山頂周辺で事故防止、犯罪防止、山火事防止等を目的としたパトロールを実施しています。

当協議会の構成員である当センターから2名が参加、東京神奈川森林管理署から3名、フォレストサポートスタッフから1名の計6名が参加し、高尾山山頂から小仏城山間の登山道において、交代で夜間の巡回パトロールを実施しました。入山規制がかかるなど多数の人が訪れた高尾山ですが、事故や山火事もなく無事終了しました。(高)



巡回パトロール開始



小仏城山から見えるスカイツリー



日の出を待ちわびる人たち



雲間からの初日の出でした

凍結路面にご注意ください

冬季は高尾山へ向かう歩道（1～6号路、いろは歩道）の凍結が予想されます。滑りやすい箇所や足場の悪い箇所では、いつも以上に慎重な歩行をお願いします。

また、登山前の準備運動もお忘れ無く。



足場の悪い箇所は特に注意

編集後記

2月14日～15日に開催される関東森林管理局森林・林業技術等交流発表会に、当センターからも『Mt. TAKAOで「木育」をやっています!!』と題し、日頃の成果を発表します。15日の11時からのご予定です。

Forest 通信 NO.360

発行_林野庁関東森林管理局
高尾森林ふれあい推進センター



ご意見・ご要望・イベントのお申込み・お問い合わせ先
林野庁関東森林管理局高尾森林ふれあい推進センター
〒193-0844 東京都八王子市高尾町 2438-1
TEL 050-3160-6040 FAX 042-663-7229
<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/takao/index.html>